

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	たけうち りお	所属・職名
	竹内 里欧	Jyväskylä University, Postdoctoral student
e-mail	rtakeuchi72@gmail.com	
発表題名 (英語)	“Kōjunsha and Gentlemanship in Modern Japanese Society : the Creation of a New Type of Public Sphere”	
著者名	Rio Takeuchi	
会議名 (英語)	Nordic Association for the Study of Contemporary Japanese Society The 6th NAJS Annual Conference	
開催地(国、市)	at Turku University, Finland	
参加期間	2009年 3月 19日 ~ 3月 20日	
<p>報告者は、2009年3月19日から20日まで、フィンランドのトゥルク大学において開催された「Nordic Association for the Study of Contemporary Japanese Society 第6回大会」に参加し、発表を行った。報告者は、まず、3月19日に行われた「Session 1」において、日本のODAにかんする Marie Söderberg (Stockholm School of Economics)の論文の指定討論者をつとめた。そして、3月20日に行われた「Group Discussion 3」においては、自身の研究(上記テーマ)について発表を行った。「Group Discussion 3」の発表者は、3人で、日本の漫画メディアにおけるサラリーマン表象を扱った Bart Gaens (University of Helsinki)、現代日本のシングルファザーの実態について分析した Anna Vainio (University of Turku)、報告者、であった。チェアは、Lars-Martin Sorensen (Copenhagen University)である。</p> <p>&lt;発表内容&gt;</p> <p>本発表では、1880(明治13)年に福沢諭吉を中心に設立された相互啓蒙的な社交団体である交詢社をとりあげ、新しい近代的公共圏の形成と、そこにおいて目指されるべき理想的男性像として「紳士」というイメージが活用されていった様相について、J. Habermas、I. Kant、A. Tocqueville の理論を補助線として用いつつ、分析を行った。本発表により、近代日本社会における、新しい公共圏の構築とそこで用いられる「理念的」人間像の役割の関係について考察が行われた。発表原稿は約 10355 語、7 節で構成されている。</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>司会者および会場の参加者より行われた質問で、特に重要と思われるのは、「① 比較分析の可能性」について、「② 武士道とのかかわり」について、「③ 交詢社における公共圏の変容の特徴」について、の3点である。「①比較分析の可能性」については、イギリス史における gentleman 概念の変容や活</p>		

### 学会発表渡航支援報告書

用の様相について、既存の研究にもとづいて説明を行った。「②武士道とのかかわり」については、新渡戸稲造に代表される、「日本のジェントルマンシップ」としての「武士道」の構築の様相について説明を行った。「③交詢社における公共圏の変容の特徴」については、J. Habermas により分析された、西洋社会における公共圏の変容の特徴との違い、またその原因と考えられることについて、議論を行った。

本学会では、政治学、経済学、社会学、教育学等、様々な分野の日本研究者が集まることにより、多様な視点から活発な議論が繰り広げられ、大いに成果があげられた。

